

## 2021 年度第 3 回産業医部会幹事会議事次第

日時：2022 年 2 月 20 日（日）13：00～16：35

場所：Web 会議（ZOOM）

（敬称略）

出席：宮本俊明、小田原努、森口次郎、西條泰明、原俊之、菅原保、  
大橋力、加藤憲忠、谷山佳津子、福本正勝、塚原照臣、西澤依小、石川浩二、  
遠田和彦、西賢一郎、伊藤正人、岩根幹能、奥田昌之、真鍋憲幸、斎藤恵、  
杉原由紀、池上和範、黒崎靖嘉  
（監事）深澤健二  
（オブザーバー）大神明専門医制度担当理事

欠席：各務竹康、

### 1. 審議事項

#### ①前回幹事会議事録の確認（資料 1）

石川幹事より議事録の確認があり、修正事項があれば 1 週間以内に連絡いただき、それを受けて確定とすることとなった。

#### ②2021 年度活動報告案について（資料 2）

石川幹事から、2021 年度の活動報告案について説明があった。また地方会行事の報告依頼があった。谷山幹事から、部会報は、12 月号は発行なしとの指摘があった。また学会の重点事項 14 項目についての記載提出が求められおり、計画案では、各種活動をあてはめて作成したと説明があった。宮本部会長より絞込みが必要とのことで修正することとなった。

#### ③2021 年度の予算消化状況について

加藤幹事より、12 月末時点で、収入執行率は 88% 支出執行率は 20%であること、また部会報は例年約 220 万円となるところ、1 号減ったため約 155 万円になる見込みであること、今後 P コースの支払いが 2 月中に発生予定であることが報告された。

#### ④専門医制度について

大神専門医制度担当理事より、学会専門医制度委員会の次期委員について、筆記試験は黒澤一先生が委員長、口頭試験は北原佳代先生が委員長に任命され、その他委員が大幅に入れ替わったことが報告された。改めて、専門医制度について産業医部会の協力を求められた。

産業医科大学卒以外の産業医学基本講座の受講者が大幅に増えており、今後医部会や学会への貢献が期待できることが報告された。また社会医学系専門医制度について、協会事務局で指導医更新手続き作業中であるが、難航しているため、不備や不明な点などあれば連絡するよう依

頼があった。

⑤医部会報について（編集委員会）（資料3）

谷山幹事より、諸事情により12月号が発行できず、次号は原幹事の編集責任のもと、74号を4月に発行予定であること、また編集委員長は今後原幹事に交代となったと報告があった。原幹事より、73号が8月に石川幹事の編集責任のもと、1850部発行済であること、74号は、原幹事の編集責任のもと、編集作業中であることが報告された。また今後の体制として、編集委員長が谷山幹事から原幹事に交代、池上幹事が副編集委員長に指名、真鍋幹事、西澤幹事が編集委員に追加、地方会担当幹事では、北陸甲信越が西澤幹事に交代などが報告された。地方会行事について、今後の提出について依頼があった。

⑥プロフェッショナルコースについて

2022年1月22日、23日に、Web開催で予定通り開催し、21名の参加者であったこと報告があった。満足度のアンケートでは、5点満点中4.9点と昨年度以上に高い満足度であったこと、2/3がリピート参加であったことが報告された。今後門戸を広げることが課題であることが確認された。また、実行委員について、今回山本誠先生、田中宣仁先生が期限満了となること、今回山本誠先生には再任、神原先生、西浦先生、菅野先生が推薦され、承認された。4名へ委嘱状の発行をすることが確認された。任期は6年であるが、今後女性委員も増やす必要性が確認された。企画委員長については、現在加藤幹事が担当しているが、今後世代交代もあわせて、検討していくことが確認された。

⑦ポスター発表優秀賞選考と表彰方法・名称・対象について（資料4）

西條幹事より、ポスター発表優秀賞について、委員会内で議論した結果、①名称について、ポスター発表時は、現状の「ポスター発表優秀賞」の名前で踏襲し、今後Web開催時には「産業医部会優秀演題賞」に変更すること、②論文発表後の発表演題であっても対象から外さず制限しないこと、③実践性と学術性を重視して審査することとなったことが報告された。

①については、異論は出ず了承された。②については、学会で規制がないため現時点では募集要項に含めない方針であることが補足された。森口副部長（総務担当理事）より、学会としても、現時点では規制はないこと、ただ他学会等での発表との二重発表は原則不可とする方針であると説明があった。③について、森口副部長より、学術委員会で「実装」についての議題があるが、今回の議論とは別問題であり、上記③で問題ないことが確認された（参考HP：<https://www.radish-japan.org/about/dandi/index.htm>）

⑧医部会員を対象とした調査依頼について

宮本部長より、立道先生から部会へ調査協力依頼があり、幹事会では認められたが、総

務担当理事に諮ったところ、部会研究でなく個人研究に対して学会のシステムを利用する会員アドレスへの発信は不可となったこと、一方で名簿使用許可は得られ、住所宛先ラベルを発行しての郵送での実施となったことが報告された。また、今後、部会としての ML があれば今回のようなケースへの対応がスムーズとなるため ML の開設提案があった。総務担当幹事の森口副部長より、学会組織の研究委員会のアンケート調査などでは利用可能であったこと、個人研究でなく共同研究の形であれば可であることなどの説明があった。

黒崎幹事より、ML は誰でも発信できてしまうため、メールマガジン（メルマガ）の方が妥当との意見があり、森口副部長からも同様の意見があった。小田原副部長より、学会からのメールが不可で紙面は可について再確認があり、森口副部長（総務担当理事）より、学会が個人の研究に協力したことになるため不可となったこと、また、メールアドレスの流出のリスクがあることも理由であるが、一方、会員名と住所の提供は現在も可能であると回答があった。黒崎幹事より、看護部会で同様の活動（メルマガ配信）があり、森口副部長から研究紹介などの活動有無について確認する旨発言があった。真鍋幹事より、部会としての方針を立てれば問題ないのではないか、という意見があり、今後検討することとなった。黒崎幹事から、Google のシステムを利用する際は、アドレスを Google に預けることへの懸念があることから、今後外部委託なども視野に検討が必要である旨、意見があった。

#### ⑨ホームページの更新について

黒崎幹事より、部会報、議事録、ダイバーシティ委員会関連行事については更新済であること、行事予定については、部会報について 1 回発刊がないため、その分は編集委員会へ検討依頼があった。

#### ⑩医部会員への ML の必要性和管理面からの実行可能性について

黒崎幹事より、上記 審議事項⑧での ML について再確認があった。HP のリニューアルもいつかのタイミングで検討すべきと意見があった。森口副部長より、リニューアルの煩雑度合の確認があり、黒崎幹事より学会本体の HP に比べればかなり工数は少ないと思われると回答があった。宮本部長より、地方会活動報告の平成 29 年度以後が未更新であることについて確認があり、学会全体の方針で、詳細な報告は地方会への報告と変更になったことによるものと推察された。今後は地方会への報告内容を部会へも報告頂き掲載していくこと、また抜けている部分は、事業報告の抜粋を掲載していくこととなった。

#### ⑪第 95 回学会（高知）医部会フォーラムについて（資料 5）

杉原幹事から「新しい時代の産業医の働き方」というテーマで準備している旨報告があった。

#### ⑫第 32 回全国協議会（北海道）自由集会について（資料 6）

原幹事から、「対応困難事例についての私の取り組み方、コツ」として企画しており、演者も決定済との報告があった。共同座長については北陸甲信越地方幹事から選出するよう依頼があった。

#### ⑬四部会合同シンポジウムについて

宮本部長より、札幌での協議会は、人材育成のテーマで準備中であると報告があった。

#### ⑭部会員増へ向けて

宮本部長から、会員増員へ向けての小委員会発足の提案があった。黒崎幹事からニーズ調査などをする提案があり、学会メールマガジンや部会報発送時、加藤幹事から、総会時に、アンケート調査を実施する提案があった。過去については、福本幹事から、地方会活動活性化の検討の際に、学会員自体を増やすことについて議論されたと報告があった。今後、小委員会の発足など執行部で検討することとなった。

#### ⑮次回幹事会の日程について

第 95 回日本産業衛生学会時、2022 年 5 月 27（金）14 時から 17 時に、現地開催予定となった。

#### ⑯その他

石川幹事より、過労死防止学会シンポジウム人選（資料 7）について、過労死防止学会から学会本部経由で医部会へ演者の推薦依頼があったと報告された。岩根幹事より建設業からの発表の提案があった。伊藤幹事より吉川徹先生、真鍋幹事より江口尚先生、宮本幹事より田中克俊先生が推薦され、審議の結果、江口先生へ依頼することとなった。

黒崎幹事より、地方会、部会、委員会に、学会ウェブサイトのイベント記事編集用のアカウントを付与することになり、担当幹事の推薦要請があった。立ち上げ時には 5 月の産業医フォーラムの広報が急がれることから黒崎幹事が仮担当に任命され、いずれ編集委員などへの付与を検討することとなった。

## 2. 報告事項

### ①第 31 回全国協議会開催報告

遠田幹事から、最終参加登録者数は 1679 人で、現地参加者約 800 人で盛会に終わったこと、また収支は現在最終調整であると報告があった。

### ②第 32 回全国協議会について（資料 6）

原幹事より準備状況について報告があった。ハイブリッド開催で 9 月 29 日から 10 月 1 日まで札幌コンベンションセンターでの開催に向けて準備中であることが報告された。医

部会企画について「社会医学系専門医の育成における協同と連携」、産業医部会・産業看護部会 30 周年記念合同企画について「産業医、看護職ともに対応に苦慮する事例の検討」をワークショップ形式で準備していると報告があった。その他四部会合同シンポジウムなど、各企画について準備状況について補足があった

#### ③第 33 回全国協議会について

塚原幹事より、2023 年 10 月 27 日（金）から 29 日（日）に企画運営委員長 山梨県医師会常任理事の小林正弘先生のもとで、甲府市にて開催予定であると報告があった。

#### ④第 95 回学会（高知）について（資料 5）

杉原幹事より、5 月 25 日から 28 日までの開催に向けて準備中であると報告があった。3 会場にまたがっての開催であること、社会医学系専門医関連企画、シンポジウム、各種講演など多くの企画を準備し、プログラムが確定したと報告された。参加登録は完全事前登録としていること、3 月 28 日までが早期登録であり早めの参加登録要請があった。社会医学系専門医の必修単位については、別料金で、オンデマンドも含めて受講可能であることも補足された。

#### ⑤第 96 回学会（宇都宮）について

福本幹事から、2023 年 5 月 10 日（水）から 12 日（金）に宇都宮市の宇都宮コンベンションセンターで、諏訪園靖先生が企画運営委員長、大久保先生がプログラム委員長となって準備が始まっていると報告があった。

#### ⑥第 97 回学会（中国地方会）について（2022 年 5 月まで公開不可）

真鍋幹事より、広島県で 2024 年 5 月 23 日（木）から 25 日（土）に開催予定であることが報告された。

#### ⑦各種委員会報告

生涯教育委員会について、伊藤幹事より、GPS 賞の選定、および HP 掲載例の選考を進めていると報告があった。

政策法制度委員会について、森口幹事より化学物質の自律管理について、人材育成のための声明文書を作成中であることが報告された。宮本部会長より、部会長、小田原副部会長が次回 3 月 16 日のラウンドテーブルディスカッションにオブザーバー出席予定（森口副部会長も政策法制度委員会枠でオブザーバー出席予定）であることが報告された。

学術委員会について森口副部会長より、各種グループ、いずれも順調に進んでいること、その中の一部として、実装研究の展開の模索やアンケート集計など作業中であることが報告された。

広報委員会について、黒崎幹事から新 HP が 2 月 28 日に公開開始であること、会員ページには新パスワードの設定が必要となること、産業医部会から山本誠先生からキャリアプランの記事が投稿されたこと、会員からの写真も掲載されていることなどの報告があった。

ダイバーシティ推進委員会について、大橋幹事から 2 月 20 日に「私の学会活動」というテーマでオンライン研修会が開催されたこと、今後 HP への話題提供を検討していること、第 95 回学会でもフォーラムを企画していることが報告された。

#### ⑧各担当幹事報告

特になし

#### ⑨理事会報告（資料 8）

大橋幹事より、第 97 回日本産業衛生学会の件の補足、謝金についての取りきめ（補足資料）などの議論があったと報告された。宮本部会長より、会議出席については原則謝金の提供はできないこと、Wi-Fi 利用料金等の経費が発生する際は、要検討などと補足があった。

#### ⑩四部会長会議報告

宮本部会長より、第 31 回全国協議会の振り返り、第 95 回のシンポジウムの「新しい時代」の「新しい」がどこにフォーカスするか議論があったと報告された。2018 年の同様のテーマでの議論では 2035 年を想定していた内容がコロナ禍もあって現時点で多くが達成されており、予測が難しくて悩ましいことが吐露された。今後は自主管理が新しいテーマとなること、また第 32 回全国協議会では人材育成がテーマとし、次の 30 年を担うために各部会としてどうしていくか、議論することになったと報告された。

#### ⑪各地方会活動報告

本件、部会報へ活動報告を投稿頂いているものを参考頂くことで代用となった。

#### ⑫各種委員会担当幹事、部会員委員【資料 9】

宮本部会長より、資料 9 について説明があった。

部会推薦委員と、その他担当理事、委員会からの直接推薦委員などが混在していること、部会推薦委員の場合は、欠員時など補充推薦が必要であることが確認された。

#### ⑬その他

森口副部長より、第 95 回日本産業衛生学会での産業医部会企画のシンポジウム 3 について、化学物質、発達障害、AI など新しい分野からの演題でのシンポジウムであること、また抄録原稿について ML で展開予定との報告があった。

以上